



# 臨床保育講座 ～専門性のある保育士養成～ 「10歳の壁」を乗り越える くぐり期(Pass Through)プログラム

NHKテレビ「クローズアップ現代」(2011年6月18日放送)で取り上げられた「10歳の壁」が大きな話題となっています。「この20年間、授業時間が削減され、学習内容も易しくなっているにも関わらず、勉強についていけなくなる児童が、9歳から10歳、つまり小学4年前後に急激に増えているのだ。原因の一つと考えられるのが「考える力」の低下。算数の場合、計算は得意でも、文章問題になるとできないケースが目立つ。背景として、ドリルに依存した学習スタイルや、家庭での会話の減少によるコミュニケーション能力の遅れなどが指摘されている。」と言います。保幼一体化が進む中で、小学校に行くまでの学習の基本はReadiness(レディネス)と言われる準備期を、どのように通過させるのかが保育園の重要なカリキュラムになってきました。

アメリカ・オランダのピラミッドメソッドやドイツのイエナプラン保育園の3歳～4歳児のカリキュラムは、1年間のテーマが準備されて、子どもは体験学習を通してReadiness(レディネス)を身につける、現代社会に必要なPISA型学力です。ちょうどトンネルをくぐるように基本的な概念を学ぶために「くぐり期(Pass Through)プログラム」と呼ばれています。

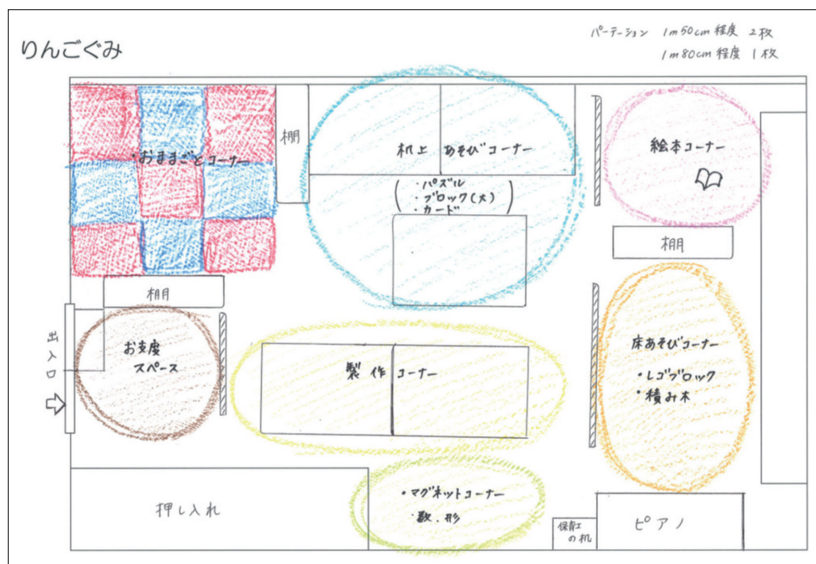
## 5歳児担当の保育士の先生方に学んでいただきたいプログラムです

### 講座 第一日目

#### ◆保育室の三次元デザインを学びます

保育室で落ち着かない、じっと座っていない子どもたちは、小学校に入学してからも教科書に視点を合わさない、先生の話の聞こえとしないと言われていました。保育室を伝統的な「静的保育型」から、グループに分かれて子どもが自主的に動く「動的保育型」に変えることで、落ち着きと耳の育ちに変化が起こります。「動的保育型」の三次元のデザインを学びます。

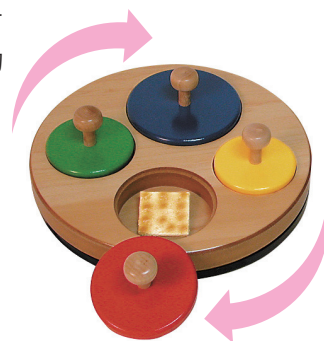
(例) 保育室の作図の練習をします。



#### ◆担任が頭を痛めるちょっと気になる子どもへの対応を学びます

- ・ 注意欠陥多動性障害と診断された子ども
- ・ 時間の変化(次の行動の予測)ができない子ども
- ・ 過敏性のこだわりを持つ子ども
- ・ こだわりが強くパニックになる自閉傾向児
- ・ オウム返しの会話をするが、コミュニケーションができない言葉おくれ

- ◆21世紀の幼児教育体験型テーマ保育の理論的根拠を学びます。  
日本の伝統的な発達段階的カリキュラムに対して、ヨーロッパの保育園では体験型テーマ保育が主流です。暗記や繰り返しによる知識の蓄積から、自分で考えて探索する力を養う21世紀の幼児教育の理論を学びます。
- ◆体験型テーマ保育の具体的な進め方とテーマ遊びの実践を学びます。  
例えば「祭り」をテーマに選んだならば遊びの目的を次のように設定します。  
3歳児：「祭りってなんだろう？」と子どもの祭り体験から話題を引き出します。  
4歳児：保育室の中に祭りの出店を再現して、買い物を通してコミュニケーションや数える体験をさせます。  
5歳児：世界にはいろいろな祭りがあることを映像や絵本から理解させるワールドオリエンテーションと呼ばれる世界理解に導きます。
- ◆M・メーカー博士（南カルフォルニア大学）の「知能の構造理論」を根拠にデザインされたセラピー（教育）おもちゃを使って、言語を成り立たせている保存の概念・数える基本の数概念・記憶の継続力の理論とおもちゃの使い方を学んでいただきます。
- ◆次のような使い方を学びます。  
右の写真はシンプルなパズルですが、それぞれの小部屋になじみのある小さなおもちゃを入れてふたをさせることで、子どもは手の操作（運動）と形理解を学びます。そして中に入っているおもちゃの名前をたずねることで記憶力が強まります。さらに、パズル台は回転するように作られているために、おもちゃを入れさせてから回転させると子どもの空間認識と記憶力の戸惑いが起こります。多様な知的力を使う「知能の構造化」理論でデザインされたおもちゃの一例です。



日 時 2011年12月23日(祭日) 10:00~16:00  
24日(土曜) 10:00~16:00

募集人数 45名

講座費用 43,000円（テキスト代込）

会場 YMCA学院高等学校 2階 図書室  
お申し込みの方にはアクセスマップをお送りします。

講師 NPO法人 国際臨床保育研究所 所長 辻井 正

講師略歴 関西学院大学文学部大学院修了後、旧西ドイツの障害者施設「ベーテル」にて看護助手として勤務し、ケルン大学（乳児の運動神経学）にて研修を受け帰国する。帰国後、日本ではじめてのおもちゃライブラリーを大阪に設立すると共に、NHK教育テレビのレポーターとして、「流行の中の子どもたち」「十代の性はゆれている」「現代おもちゃ事情」「今、幼児教育を問う」等の取材で活躍。大阪教育大学、神戸女学院大学講師を経て、現在は、臨床の場として、アサヒベビー相談（朝日新聞社厚生文化事業団）のカウンセラーとして乳幼児期の発達検診や相談を行う。ヨーロッパ各国の保育や幼児教育研究所との交流も深く、オランダ政府教育機構開発のピラミッドメソッド教育法を日本に導入し、現在ではニュージーランドFSP法、アメリカのメストネック博士発達セラピー（教育）おもちゃの紹介に力を注いでいる。平成12年大阪府教育功労賞授賞。平成13年社会学博士号（Modern Society and Children）修得。2006年オランダ・アーネムで行われた国際幼児教育大会で日本代表に推薦される。

下記の申込書に必要事項を御記入の上、  
**06-6773-3008**までFAXをお願いいたします。

### 申込書

ふりがな  
受講者名

勤務先

職務名

勤務先住所

勤務先電話番号

FAX番号

勤務先以外へのFAXを希望される方は下記にご記入ください。（記入例：送り先は市外局番-xxxx-xxxxx。メールで送ってください。アドレスは、……。）  
お支払い方法ですが、振込先を明記した「お申し込み確認書」をFAXします。指定の口座にお支払いください。  
※お昼食やお弁当ですが、近辺にファーストフードや手軽な食堂があります。又、各自でお昼食をご持参いただき講習室でお召上がりください。

勤務先以外の連絡先